



すくすく



附属小学校
生活部だより最終号
令和6年3月21日

1年間、ご理解・ご協力、ありがとうございました

春の陽気を感じるようになりました。「140周年」という節目の年度ももうすぐ終わりを迎えようとしています。昨年の4月よりもたくましくなった附属っ子の姿に、私たち教職員もこの1年の子どもたちの成長を感じずにはられません。まさに、生活部だよりのタイトルの通り、今年度も子どもたちは“すくすく”と成長しました。

そして、6年生はいよいよ卒業を迎えました。今年の6年生の様子をそばで見えていましたが、一番の印象は、下学年の附属っ子への接し方です。ファミリー活動や清掃時にとっても優しく温かく包み込むように接している姿に、6年生の素敵な人柄を感じずにはられませんでした。そんな6年生が附属小学校を去っていくのは、率直にとっても寂しいです。しかし、6年間の成長を振り返るとともに、支えてくれた家族や友達、かかわった様々な方々への感謝の気持ちを持ち、「燦」のごとく6年間で身に付けた経験に自信をもって、堂々と次のステップに向けて進んでほしいです。

さて、今年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類となり、徐々に学校もコロナ禍前の生活を取り戻しつつあります。140年先輩方が築き上げてきた附属小学校の伝統を残しつつも、さらによりよくするために改善するという姿勢で、試行錯誤を重ねながら子どもたちにとって有意義な教育活動が実践されるよう進めてまいりました。このような状況の中で、例年と大きく変わった内容もありましたが、変わらない、ひた向きの子どもたちの姿や保護者の皆様のご理解・ご協力が、大きな励みとなりました。今年度も多くの場面で附属小学校を支えてくださり、本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。来年度も、今年度の経験を活かしながら、子どもたちが充実した学校生活を過ごすという大前提の目標のもと、教職員が一丸となってより一層の教育活動の充実を図ってまいります。来年度もどうぞよろしく願いいたします。

今年度も多くの方々に「すくすく」をお読みいただき、ありがとうございました。

(生活部長 玉井 淳博)

大切なのは、思いをつなぐこと～ファミリー遠足～

「先生、てるてる坊主を作ったら明日は晴れるかもしれない！」

「でも、明日の降水確率は100%だって、天気予報で言ってたよ。」

前日から子どもたちの頭の中は、天気のことです。それもそのはず、明日は待ちに待ったファミリー遠足なんですから。

140周年を締めくくるファミリー遠足は、なんと雨。でも、随分前から雨予報だったからか、「校内遠足を思いっきり楽しむぞ！！」と子どもたちは意気揚々としている様子。各組団で譲り合いながら体育館を使い、5年生が企画してくれたイベントを楽しみました。

まずは、組団対抗種目、長縄「8の字ジャンプ」に挑戦。ファミリーのみんなで声を掛け合いながら、一生懸命に跳びました。次は、ファミリー対抗種目！「我がファミリーが一番！！」と各班が競い合い、体育館は熱気で満ちていました。最後の解散式では5年生から手紙のプレゼント。お兄さんお姉さんからのメッセージをうれしそうに見詰める低学年の子どもたちの姿に、胸が熱くなりました。ファミリーだけで過ごす時間も、風船バレーやフルーツバスケット

など子どもたちが好きな遊びをして、時間いっぱい楽しく過ごすことができました。

それもこれも、すべては5年生のおかげ。6年生に代わって下学年の子たちを精一杯支えながら、ファミリーでの活動を進めていく姿に頼もしさを感じるとともに、「ありがとう」の気持ちでいっぱいになりました。今も十分素敵な附属小学校ですが、新しい6年生がより心地よい風を吹かせてくれることでしょう。

(生活部 河野 幹大)

